



か、れんと

女性の「ひ・と・り・だ・ち」

「自立」という文字を見てどのように考えますか？
 そして、あなたは自分自身が自立していると思えますか？

「自立」にもいろいろあります。

子どもの親離れ、親の子離れ、夫、お年寄りが自分の身の回りのことは自分でできる、夫婦がそれぞれに収入を得ている、自分の言動に責任を持つ・・・など。

このように家庭の中の小さな自立から、社会という大きな組織の中での自立もあります。

「自立」とは何でしょう。
 それは読んで字のごとく「ひとりだち」ということです。

例えば、小さな赤ちゃんが初めて立ち、誰の手も借りずに一歩前へ進む。これは人生最初の自立といえるでしょう。

では、女性の自立とはどのような事をいうのでしょうか。

今回は「女性の自立」について一緒に考えてみましょう。

主な項目

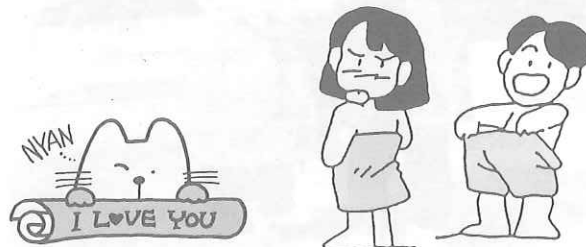
- ・女性の「ひ・と・り・だ・ち」
- ・特集 あなたの明日は大丈夫
- ・標語・意見文発表
- ・すてきな女性
- ・いくあいていのつどい
- ・先輩フェミニストからのメッセージ



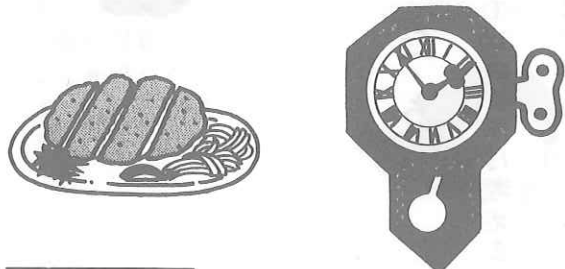
大丈夫?!

自立することは生き方の基本です。
 差別なく個性的に生きるためには、生き方の基本として自立が必要です。
 依存した生き方の中で個性を主張すれば、平等とはかけ離れたものになってしまいます。あなたの自立度をチェックしてみましょう。

- 1 それは違う、と思っても波風を立てたくないので黙ってしまうことが多い。(はい・いいえ)
- 2 どんな時も、男は涙など見せるものではない。(はい・いいえ)
- 3 「昔からそうだから」「みんながそうするから」という言葉をよく口にする。(はい・いいえ)
- 4 PTAや自治会の責任ある仕事は、やはり男性に任せるのがよい。(はい・いいえ)
- 5 女性は家族の為につくすことが何より大切な事だと思う。(はい・いいえ)
- 6 風呂に入る順序や、御飯をよそう順序などが決まっている。(はい・いいえ)



- 1 浮気は男の甲斐性だから、男性に比べて多くの女性と関係を持つのは良い。(はい・いいえ)
- 2 妻の体調や気分がすぐれないときなど、夫からの性の要求を断っても良い。(はい・いいえ)
- 3 「セクハラだ」と騒いでいるのは特別に変わった人たちだ。(はい・いいえ)
- 4 「女性は貞淑であるべきだ」という考えは、人権を無視している。(はい・いいえ)
- 5 男性は強く逞しく、常に積極的に振る舞うべきだと思う。(はい・いいえ)
- 6 ポルノ類やビニ本などもやはり必要なものだと思う。(はい・いいえ)



診断表

0~32点 依存型

あなたは一般的にいわれる良妻賢母型を理想とするタイプです。女性は慎ましく控えめに、家族に尽くすことで満足するものと思込んでいます。しかし、他人に頼り切っているのは自分が持てません。まだ遅くありませんから、自分の人生を生きることを考えてください。

33~59点 半自立型

あなたは日々の生活のなかで自分なりの生き方をしようという意識をもっています。ただ既成の習慣や常識にとらわれて、もう一歩のところまで引き下がっていませんか。自立の四つのパターンをバランスよく持てるよう努力してください。

60点以上 自立型

あなたは自分なりの主義主張をもって生きています。周囲の言動に惑わされることもないようです。あなたは自立と自分勝手との違いを知っています。頑張ってください。

精神的自立 性による固定観念からの脱皮

女性は「女性」という小さな枠の中で、批判力を持たない他律的な人間となるように育てられてきた部分がある。人間として自分の考えをもって行動し、性にとらわれない生き方をする。
 そして自分の中にある、すでに作られてしまった固定観念や依存的な態度を自覚する必要がある。

性的自立 性のとらえ直して豊かな人間関係

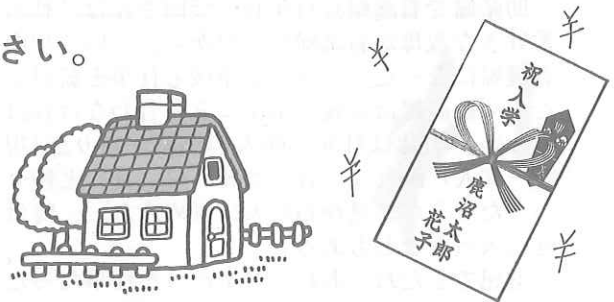
男の性は強く逞しく能動的、女の性は受け身で恥じらいがあり、性的なことは口にしないものと考えられがちだった。
 自分の性行動を主体的に、意識的に決めることを「性の自己決定」という。自らの性を知り自覚的に生きることが大切である。性のとらえ直して、自分の性についての考えをパートナーに伝え、豊かな関係を作る。

自立度チェック

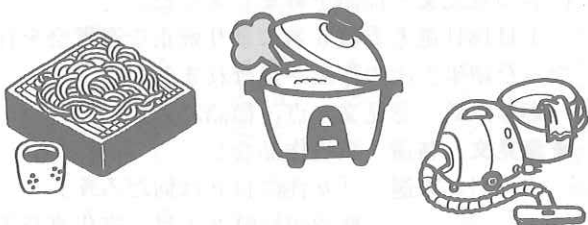
あなたの明日は

☆次の質問に「はい」「いいえ」でお答えください。

- ① テレビを見ていたり、ゴロ寝をしていると、ついだらだらとしてしまう。(はい・いいえ)
- ② 出前を取るのには手抜きのようにいやだ。(はい・いいえ)
- ③ 食品の安全に気を配り、栄養のバランスも考えて食事作りが出来る。(はい・いいえ)
- ④ 目的や場所等に合わせて着ていくものを考え、準備できる。(はい・いいえ)
- ⑤ 洗濯をしたら、干すところまで自分でする。(はい・いいえ)
- ⑥ 簡単な電気器具の修理など、とりあえず自分でやってみる。(はい・いいえ)



- ① 自分名義の預金通帳を持ち、大体の残高を知っている。(はい・いいえ)
- ② 妻も夫も別々に小遣いを持つようにしている。(はい・いいえ)
- ③ 自分の関係者の慶弔金でも、金額は配偶者に決めてもらう。(はい・いいえ)
- ④ 配偶者や家族を頼らずに自活出来るだけの経済力を持っている。(はい・いいえ)
- ⑤ 家や土地の購入で借入れするとき自分で資金計画ができる。(はい・いいえ)
- ⑥ 夫の収入が充分あっても、したい仕事があれば妻も働いたほうがいい。(はい・いいえ)



自己診断の方法

右の表に従って点数を計算してみてください。

◆ 生活的自立.....	点
♠ 経済的自立.....	点
♣ 精神的自立.....	点
♥ 性的自立.....	点
合計	点

合計点が出たら2頁の診断結果で、あなたの自立度を見てください。あなたにとって不足している自立の項目がわかります。

<自立度チェック点数表>

◆ 生活的自立		♠ 経済的自立			♣ 精神的自立			♥ 性的自立			
No.	はい	いいえ	No.	はい	いいえ	No.	はい	いいえ	No.	はい	いいえ
1	0	1	1	1	0	1	0	5	1	0	1
2	0	1	2	1	0	2	0	1	2	5	0
3	5	0	3	0	3	3	0	3	3	0	3
4	3	0	4	5	0	4	0	1	4	3	0
5	3	0	5	3	0	5	0	5	5	0	1
6	5	0	6	5	0	6	0	3	6	0	5

生活的自立 衣食住の生活を自立的に行なう

人間にとって自分の身の回りのことは、自分でする力を持つことが基本で、子どものしつけにおいても重要な部分を占めている。

しかし、せっかくの基本的習慣も性別役割分業の中で崩れてしまう。

女性も男性も自分の身の回りのことを自分でやるという、身近な生活の自立から平等が始まる。

経済的自立 生活的自立の基礎を作る

衣食住の生活を自立的に行なうには、それをまかなう収入が必要である。

生活的基盤を他に依存しているのでは、自立も限定されてしまう。

かつて女性は、すべてを男性に左右される弱い立場であったが、自立することは生活の基本であり、経済的な生活の基盤を自分で持つことは欠かせない。



ひと すてきな女性

柴田由利子さん(44才)

助産婦で看護婦長11年目の柴田さんは、「私の一番好きな叔母が看護婦だったから」という理由で看護婦になったという。結婚後も仕事を続けていたが、助産婦は昼夜、出産に立ち合わなければならない。当時は月50~60人の出産があり、(現在20~30人)眠れない日々が続いて、日ごと痩せていったようだ。見かねた夫に勧められ、一時は家庭に入ったこともある。

「退屈でしたね。あれほど辛かった仕事だったのに職場を離れてみると、赤ちゃんを迎えて幸せ一杯の家族の顔が忘れられず、充実した日々がとても貴重だったことに気がついたのです。」

数か月後に復帰した。あれから20年。3人の子供にも恵まれたが、「子育てではおばあちゃんにも大変お世話になりました。」と感謝している。

看護婦不足が叫ばれる中、年に一人くらいは看護士も採用され、昔と違い女性も男性も同じ仕事をしているという。

昨年、第一回栃木県看護婦の海外研修で、アメリカを訪れ、日本の医療や教育体制の格差を実感してきた。

「退職したら、仕事から得たことを社会に還元したい。例えば、仕事を持つ母親が安心して子供を産める環境作りや、小児虐待・思春期の性の問題等で悩む母親にアドバイスなどが出来たら、と思います。」と、抱負を語ってくれた。



先輩フェミニストからのメッセージ

自身を救うものは、
自分以外にない
という真理を発見したのです。

女流画家 三岸 節子 (1904~)

女性問題は私達の身の周りに普通にある問題です。そのことを特別視することは、問題に気づいていないこととです。
市川房枝さんはじめ先輩フェミニスト達が勇気をもって切り開いてくれた道に、私たちは感謝と尊敬の念をもって続いていきたいと思います。



第11回“いくありていのつどい”開催

今年も女性問題を考える“いくありていのつどい”が開催されました。

平成6年1月22日(土) 於・市民文化センター

●地区別懇談会の報告

●講演「新しい地域作りと女性」

講師 長岡短期大学教授 金井 淑子氏

●映画「87才の青春」

(講演の要旨)

今社会が急激に変化している中で、女性問題ももはや個々の問題ではなく、社会全体のレベルで考えてゆかねばならない。例えば女も男も共に働き税の分担をする必要がある。また、女性団体の組織作りとしては、従来 of 婦人団体的意識の感覚ではなくネットワーク感覚・平等の感覚でイメージしてほしい。これからは、女性活動も行政に要求するだけでなく、参加から参画へ、政策決定の場に立ち入れるまでに高める必要がある。



意見文・標語の入選

平成5年11月、さわやか男女共生社会をめざす内容の意見文と標語を募集しました。

1月18日選考委員5名により厳正な選考会を行なった結果、次の作品が選ばれました。

(応募点数 意見文4点・標語33点)

●意見文 特選 該当作品なし

入選 「女性の自立は何だろう」

鹿沼市緑町2丁目 室伏真奈美

「女性の自立とは」

鹿沼市奈佐原町 萩原コト子

●標語 特選 平等の心を植えよう育てよう

小さなうちから家庭から

鹿沼市府所町 鈴木久美子

入選 両性の英知で育む

ゆたかな社会

鹿沼市銀座1丁目 福田真理子

〔総評〕

何が女性問題を正しくとらえるには、総合的な知識と判断が必要です。今回「自立」というテーマでの論文が揃って入選しましたが、視点としては的確であったと思います。しかし、自立を厳しく見つめ、辛くても自己否定から出発することも必要ですし、また論旨にそっての一貫性も大切です。女性学セミナーなどの機会を利用し、広く深く女性問題を学ぶと共に次回はより多くの市民の応募を期待します。